

第80回
日本PTA東海北陸ブロック研究大会
愛知大会 報告書

誇りを胸に 笑顔を繋ぐ 心の輪
— 耀く未来であるために —



開催日 令和6年10月25日(金)・26日(土)
開催場所 Niterra 日本特殊陶業市民会館 他2会場

主催 日本PTA東海北陸ブロック協議会
愛知県小中学校PTA連絡協議会

目 次

大会概要	1
1 趣旨	1
2 大会主題	1
3 主催	1
4 後援	1
5 開催日・日程	1
6 会場及び参加者数	2
分科会	3
第1分科会【家庭教育 A】	3
第2分科会【家庭教育 B】	4
第3分科会【学校支援 A】	5
第4分科会【学校支援 B】	6
第5分科会【地域連携 A】	7
第6分科会【地域連携 B】	8
全体会	9
1 オープニング 豊田大谷高等学校 ダンス部	9
2 開会式	10
3 記念公演 合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」	11
4 閉会式	12
参加者アンケート集計結果	13
1 概要	13
2 アンケート結果	13
企画検討会議・準備委員会・実行委員会の活動状況	14
1 企画検討会議	14
2 準備委員会	14
3 実行委員会	15
大会役員・大会実行委員会・分科会運営関係者	16
1 大会役員	16
2 大会実行委員会	16
3 分科会運営関係者	17

大会概要

1 趣旨

東海北陸ブロック6県1市のPTA会員が一堂に会し、PTAの当面する今日的課題について研究・実践・活動した成果を基に討議を深める。さらに、6県1市のPTA活動の情報交換を行い、互いに協力してPTA活動の振興に資する。

2 大会主題

誇りを胸に 笑顔を繋ぐ 心の輪
— 耀く未来であるために —

3 主催

日本PTA東海北陸ブロック協議会
愛知県小中学校PTA連絡協議会

4 後援

文部科学省
愛知県教育委員会
公益社団法人日本PTA全国協議会



▲愛知大会 2次案内

5 開催日・日程

(1) 分科会

令和6年10月25日(金) 午後1時30分から午後4時まで

12:30 13:30 13:40 14:05 14:40 15:45

受付	開会	実践発表①	実践発表②	講演	指導助言
----	----	-------	-------	----	------

(2) 全体会

令和6年10月26日(土) 午前9時から午後0時20分まで

8:30 9:00 9:30 10:30 12:00

受付	オープニング	開会式	記念公演	閉会式
----	--------	-----	------	-----

6 会場及び参加者数

(1) 分科会

分科会	領域	会場	ホール	参加者数
第1分科会	家庭教育 A	岡谷鋼機名古屋公会堂	4階ホール	259人
第2分科会	家庭教育 B		大ホール	192人
第3分科会	学校支援 A	Home&nico ホール (江南市民文化会館)	大ホール	175人
第4分科会	学校支援 B		小ホール	179人
第5分科会	地域連携 A	Niterra 日本特殊陶業 市民会館	ビレッジホール	310人
第6分科会	地域連携 B		フォレストホール	247人
合計				1,362人

(2) 全体会

会場	ホール	参加者数
Niterra 日本特殊陶業市民会館	フォレストホール	879人



分科会

第1分科会【家庭教育 A】

実践発表①

発表校 福井県福井市立殿下小学校 P T A

研究主題 殿下校思い出ツナグプロジェクト

～閉校の悲しみを希望に変えて、未来へツナグ～

発表内容 プロジェクトは、地区の団体、卒業生、P T AとそのOBなどで組織し、「学校はなくなっても、思いは未来へ繋いでいく」を合言葉に活動。モザイクアートや、未来ミュージアム、歴代の卒業文集の展示や、メモリアルグッズの作成などをし、今年5月には廃校記念イベントを実施。閉校というネガティブな課題をチャンスと捉え、地区全体が一つとなることができた。

質疑 Q1 / 活動する人が同じ顔触れになる。活動のヒントはあるか？ → 若者たちの意見を尊重することが大切。



実践発表②

発表校 愛知県豊田市立飯野小学校 P T A

研究主題 手軽な P T A 活動を目指して

～負担なく・無理なく・簡単に～

発表内容 本部役員と委員、合計 27 名で、年 6 回の役員会、資源回収の手配、広報誌の発行などを行っていた。役員への成り手不足は永遠の課題であった。役員免除基準などを設けたが、有効ではなかった。そこで、充て職の廃止、資源回収のセルフ化、交通当番の廃止（自由実施）などした。効果的な見直しが行われ、6 名とした役員以上の立候補者があった。活動を削減したことで家庭での教育の大切さを認識できたのではないかと思う。

講演

講師 吉田しのぶ、ロジャー涼子（アドラー式子育て ComPAS 所属）

講演内容 アドラー式子育ては、子どもが自分で考える力などの非認知能力を身に付けるためのプログラム。子どもの信念の部分に働きかける内発的動機付けについて会場全体で体験し、哺乳類脳（考えることができる脳）で話すことの必要性を学んだ。

質疑 Q1 / 哺乳類脳で話す状況にするコツは？ → 子どもにも脳について理解してもらい、自身の状況を伝え、時間を置くこと。

指導助言

助言者 松井鮎子（東三河教育事務所新城設楽支所 教育主事）

内容 殿下小 P T A は、目的を当初から共有していたことが主体的な活動につながり、この取組が子どもたちの生きる糧になると感じた。飯野小 P T A は、活動の必要性をしっかりと考え、活動の見直しを行っていた。地域全体で子育てを進めていく意識が大切。

第2分科会【家庭教育 B】

実践発表①

発表校 名古屋市立大高小学校 P T A

研究主題 今こそ！ P T A

～子どもを見守る P T A が一蓮托生に～

発表内容 コロナ禍で活動が縮小され、P T A の「心」の伝承が途切れていた。そうした中、創立 150 周年の記念イベントとして花火を打ち上げる企画をすることで学校や子どものために P T A ができることを見直すきっかけとなった。P T A への理解を深めるための P R 活動や子どものためにできる活動を少しずつ積み重ねた。地域の力を借り「打上げ花火」は成功。今年度はキャリア教育への参加を開始した。

質 疑 Q1 / 花火の予算は？ → 40 万円程度（10 分間）。



実践発表②

発表校 愛知県阿久比町立阿久比中学校 P T A

研究主題 「例年通り」からの脱却！

～楽しく、無理なく、ためになる P T A 活動を目指して～

発表内容 大きくなりすぎた組織を誰もが参加しやすい P T A にするため、組織改革を行った。加えて、集まった役員でその年度に行う行事を話し合い企画・運営していくことに。保護者目線での不登校支援、進路学習会「先輩の話聞く会」や性教育セミナーを行った。保護者へのアンケートをもとに活動することにより前向きな活動ができるようになった。今後も「楽しく、無理なく、ためになる」活動を模索する。

講演

講師 濱崎明子（株式会社プラススマイル代表）

講演内容 後悔しない「怒り」との付き合い方を学ぶ。怒りの感情をコントロールできないと伝えたいことが伝わらない。価値観が多様化する中で、他人を知るためには、自分の「怒り」を知りコントロールすることが大切。

質 疑 Q1 / 怒ってしまった場合のフォローは？ → 本当はこうだったと伝える。

指導助言

助言者 山本宮英子（知多教育事務所 教育主事）

内容 大高小 P T A は、P T A について保護者に理解してもらい、P T A が活躍できる場を作ることの大切さを教えていただいた。阿久比中 P T A は、P T A のスリム化とやりたいことをする P T A 活動が印象的だった。どちらも不易流行である。

第3分科会【学校支援 A】

実践発表①

発表校 石川県能登町立能都中学校 P T A

研究主題 今だからできること、
そして、今しかできない P T A 活動

～1.1 能登半島地震 被災地で生まれた本当の協働～

発表内容 「できる人が、できるときに、できることを」「できる人を褒める」など、心からの愛情をもって活動する組織を目指し計画実施しようとした矢先に地震が発生。避難所となっている体育館で卒業式をしたいと子どもたちから P T A へ声が届いた。必要な調整を行い、避難者の協力で無事に卒業式を体育館で迎えることができた。決して望んだことではないが、被災したことで P T A の意義や地域とのつながりが必要であると感じた。これからも「子どもたちの笑顔」を目的に、日常を取り戻すため進んでいく。



実践発表②

発表校 愛知県江南市立門弟山小学校 P T A

研究主題 学校の素材を生かし、地域連携を深める P T A 活動
～あったかイベント「親子焼き芋パーティー」～

発表内容 持続可能な P T A 組織を目指し、スリム化を図った。役員は 23 名から 17 名に。加えて P T A 活動を見直すためにアンケートを実施。様々な意見の中で「親子参加の企画があるとよい」という意見をヒントに「親子焼き芋パーティー」を実施。学校運営協議会の協力もあり、子どもたちの貴重な体験の場となった。今後の様々な組織が連携し、地域の宝である子どもたちを育てていきたい。

質疑 Q1 / 活動をすることでどう意識が変わったか？ → 地域とのつながり、保護者同士のつながりができた。

講演

講師 高綱睦美（愛知教育大学学校教育講座 准教授）

講演内容 能都中 P T A のアクションをする勇氣、門弟山小 P T A のワクワクする想いでやれていることが素晴らしい。VUCA の時代、子どもたちが考えて決めたことを大人が支えることが幸福感につながる。キャリア教育は学校教育だけでは難しい。地域の大人と子どもたちがつながり合う社会教育が大切。

指導助言

助言者 永津英一（尾張教育事務所 主任教育主事）

内容 両 P T A とともに今の時代にあった形にアップデートしていている。中にはボランティア制として上手くしている P T A もある。参加者・運営者ともにそれ以上の充実感や満足感を得られたことが負担を感じさせない活動につながっていると感じた。

第4分科会【学校支援 B】

実践発表①

発表校 岐阜県美濃市立美濃小学校 P T A

研究主題 持続可能な P T A 活動の創造

発表内容 美濃市は人口2万人以下の都市。不登校児童

生徒の増加により、学校支援の一環で先生のゆとりを生むことをテーマとした。子どもの笑顔を醸成するために大人の負担を減らした。エントリー制度を導入し、ミスマッチを減らすことで持続可能な P T A 活動を達成する。

質疑 Q1 / エントリー制度を盛り上げる方法は？ → 活動する際には1人以上の役員が参加し、活動の軸となる。Q2 / 想定よりもエントリーが少ない場合は？ → やれることのみを実行するか企画自体を廃止する。



実践発表②

発表校 愛知県豊橋市立高豊中学校 P T A

研究主題 子どもたちのためにできることを

～子ども・学校に寄り添う P T A をめざして～

発表内容 豊橋市は太平洋沿岸に位置し、アカウミガメが産卵する「表浜海岸」がある。P T A 組織を再編し、委員の3分の1の任期を2年間とすることで持続可能な形で学校支援を実施。海岸クリーン活動等を通じて、地域と学校が寄り添う活動をすることで子どもたちが地域を知る機会をつくり、子どもたちの理解につなげている。

質疑 Q1 / 「海岸クリーン活動」は伝統の名のもとに変革が阻害されていないのか？ → 意義がしっかりある活動であり、こういったよいものは残していきたい。

講演

講師 深見太一（愛知教育大学 非常勤講師）

講演内容 少子高齢化、担い手不足、地域力の低下などさまざまな課題がある。これらを解決する一つが「緩やかに繋がる仕組み」をつくること。人は長所で尊敬され、短所で愛される。短所を話し合える環境が必要。意識的にハッピーを見つける習慣をつけることが幸せな思考を生み出させる。

指導助言

助言者 小柳津清千（東三河教育事務所 主査）

内容 美濃小 P T A の活動には、強い思いが成功につながっている。大人の背中を見て成長した子どもたちは、少々の困難ではへこたれない。高豊中 P T A の活動にある、地元を知っていることは地元から出たときにとっても大事なこととなる。学校が P T A や地域に支えられていると改めて実感した。

第5分科会【地域連携 A】

実践発表①

発表校 三重県四日市市立塩浜中学校 P T A

研究主題 コロナ禍を経てなお、見直し、
継続していく地域連携

～地域性と小規模校の特性を生かした、伝統文化の継承～

発表内容 ピーク時は1,100人の生徒がいたが、現在は85人。生徒は減っているが、よいと思ったことはすぐに行動できるなどのよい面もある。「おつきみフェスティバル」や「塩浜地区文化祭」など地域のイベントを通して子どもたちと地域とのつながりを大切に、小規模校としてのスケールメリットを活かした地域連携を大切にしたい。



実践発表②

発表校 愛知県岡崎市立大門小学校 P T A

研究主題 地域社会との緊密な連携を築こう

— P T A、地域、学校で子どもの成長を見守る—

発表内容 P T A 活動として1年生交通安全教室や登下校見守り活動などを地域や警察の方々と連携して実施。また、しめ縄広報活動という地域独自の活動も実施し、子どもたちの安全を地域全体で支えることができている。今後も継続して地域の方々に協力していただくためには、体制づくりが非常に大切。

講演

講師 児玉匡信（守山幼稚園園長）

講演内容 自分が我慢すればよいという考えは長く続かない。自分が楽しんで取り組めることを探ることが大切。子どもが輝くために大人に必要なことは、①他人と関わること、②社会と関わること、③やりたいことや思いついたことをやってみること、④失敗や成功を繰り返すことである。

指導助言

助言者 角谷 諭（西三河教育事務所 主査）

内容 地域連携は、今後非常に重要。学校と地域が手を取り、子どもたちの学びを支えていくことが大切。年齢に関わらず、様々な人と交流できるイベントは子どもたちの成長にとってとてもよい。P T A に対して消極的な意見もあるが、ぜひ前向きな活動を行っていただきたい。

第6分科会【地域連携 B】

実践発表①

発表校 富山県富山市立光陽小学校 P T A

研究主題 地域連携の重要性

～光陽っ子のために（安全・見守り）～

発表内容 創立 22 年の新しい学校。P T A が関わる地域の団体は代表的なところだけでも 10 を超える。日ごろから地域の行事・活動に密接に関わり、学校運営協議会を通じて学校や児童について情報交換をしている。P T A 活動の中には P T A だけでは難しいものもあり、地域連携を大切にしている。「光陽夏まつり」や「光陽わくわくバザー」「学校へ泊まろう！」などのイベントを通じて、学校を中心とした地域連携を進めるとともに光陽っ子の成長を見守り、P T A 活動を通して育まれた深く強い絆を大切に受け継いでいきたい。



実践発表②

発表校 愛知県瀬戸市立水野中学校 P T A

研究主題 地域と協働・連携する P T A 活動

～地域とのつながりを今こそ～

発表内容 P T A 活動のスリム化を図り、負担の軽減と子どもの成長につながる新たな P T A を目指している。慣例として行われていた活動を、その年の役員で相談し実施するものに変えた。ボランティア制を導入し、活動ごとに参加する会員を募集することとした。吹奏楽部が地域のイベントに参加し、小学生とふれあいながら、学校から地域へ、そして、学校運営協議会が橋渡しとなり、地域と学校の間が強化されていると感じる。今後も、負担軽減を図りながら、「参加しやすい・参加したくなる」活動を考え、学校、家庭、地域が一体となった魅力ある P T A 活動を行っていきたい。

講演

講師 柴田朋子（キャリアコンサルタント）

講演内容 瀬戸市の「キミチャレ」事業では、全てのことを子ども自身がやっている。失敗や挫折があっても、自分が決めたことだからやれる。子どもたちが自分でやろうとしたことを大人が先回りしてはいけない。大人は人生を楽しみ、子どもたちに期待する生き方を自分でする。子育ての上位目的は、子どもが社会に出て自立して生きていけること。挫折したときに「何とかなる」と思える、身近な大人に相談できるという土台があればよい。

指導助言

助言者 河竹 茂（海部教育事務所 主任教育主事）

内容 地域が子どもを育てるために、P T A は保護者に学校の方針を伝え、保護者の声を学校に届けることを行う必要がある。企業や自治体などの団体、地域資源の活用も大切である。

全体会

1 オープニング 豊田大谷高等学校 ダンス部

日本高校ダンス部選手権全国大会準優勝や目指せ高校 NO.1 ダンス動画フェス優勝、全日本高等学校チームダンス選手権 8年連続出場、などの輝かしい実績を持つ豊田大谷高等学校ダンス部。チームごとのテーマに合わせ、練習を重ねたダンスを愛知大会全体会のオープニングとして披露してくれました。動きだけでなく表情で会場を魅了し、参加者に笑顔と元気を届けてくれました。



2 開会式

開式の言葉

国歌斉唱

P T Aの歌斉唱

主催者挨拶

来賓祝辞

来賓紹介

祝電披露

シンボルマークデザイン制作者表彰

功労者表彰（表彰状・感謝状贈呈）

閉式の言葉



3 記念公演 合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」

愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団と、ともに歌う合唱団(指揮・作曲/藤村記一郎)

戦前戦後の史実を基に、人々の苦悩、命への慈しみ、そしてゾウをみたいという子どもたちの夢、それを実現した平和への願いを、大人、子どもで歌う「合唱構成(11曲)」。

舞台は名古屋市千種区にある「東山動物園」。戦争が激しくなる中、各地の動物園では動物たちが次々と殺されていく。そんな中、園長を先頭にゾウたちを必死に守り抜き、そのゾウたちを見るために子どもたちの夢を乗せた特別仕立ての「ぞうれっしゃ」が全国から名古屋へ。

記念公演の最後には、会場全体で「ぞうれっしゃよはしれ」を歌い、平和の大切さ、命の慈しみを体感することができた。



4 閉会式

感謝状贈呈

お礼の言葉

次期開催地紹介

閉会宣言



参加者アンケート集計結果

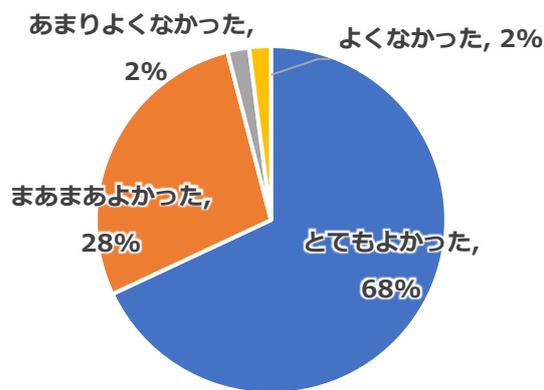
1 概要

- (1) アンケート方法 2日目の全体会会場において実施（オンラインフォーム）
- (2) 回答者数 197人（保護者125人、教員28人、その他関係者等44人）

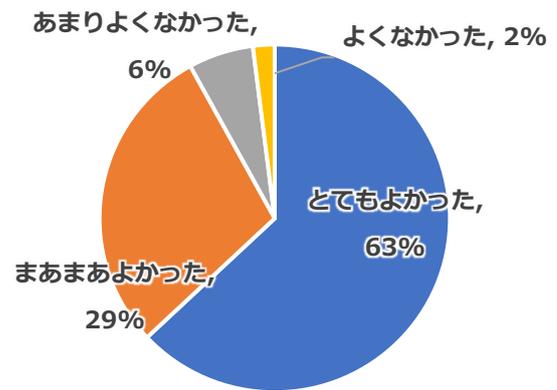
2 アンケート結果

(1) 分科会

実践発表

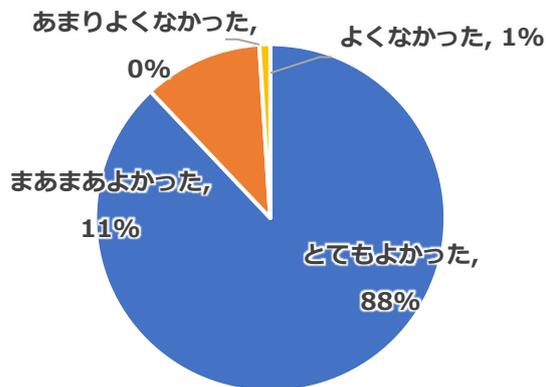


講演

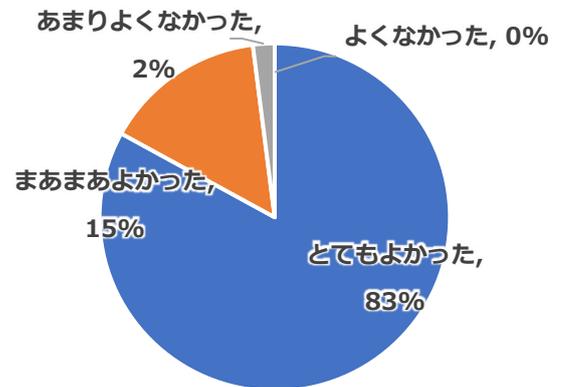


(2) 全体会

オープニング

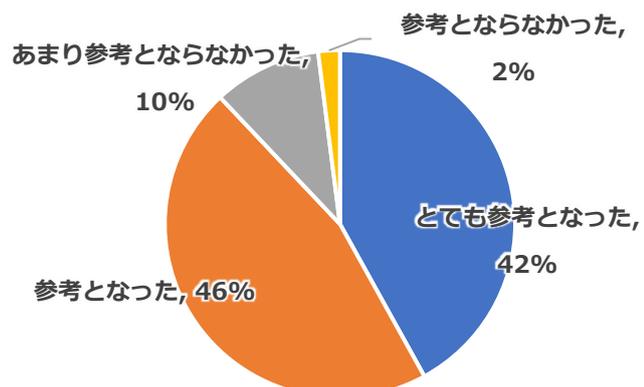


記念公演



(3) 愛知大会全体

愛知大会が今後の PTA活動の一助になったか



企画検討会議・準備委員会・実行委員会の活動状況

1 企画検討会議

	期 日	場 所	会議名	主な内容
令和 3年	7月29日	愛知県教育会館	第1回企画検討会議	第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 愛知大会に向けて（組織のあり方、開催期日場所 など）
	10月26日	愛知県教育会館	第2回企画検討会議	第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 愛知大会に向けて（開催地区、開催方法の検討 など）
令和 4年	1月13日	愛知県教育会館	第3回企画検討会議	第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 愛知大会に向けて（会場候補地の選定など）
	3月8日	愛知県教育会館	第4回企画検討会議	第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 愛知大会に向けて（準備委員会の組織など）
	5月12日	愛知県教育会館	第5回企画検討会議	第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 愛知大会に向けて（準備委員会の組織など）

2 準備委員会

	期 日	場 所	会議名	主な内容
令和 4年	8月3日	愛知県教育会館	第1回準備委員会	企画検討会議での確認事項 福井大会でのPR、準備委員会での検討事項など
	10月7日	愛知県教育会館	第2回準備委員会	分科会会場の予約、シンボルマークの募集、大会 規模、記念講演候補者など
	11月24日	愛知県教育会館	第3回準備委員会	シンボルマークの募集案内、実行委員会の組織、 分科会と会場、記念講演・オープニング候補者 など
令和 5年	3月7日	愛知県教育会館	第4回準備委員会	シンボルマークの選定、実行委員会役員の選出、 記念講演・オープニング候補者、愛知大会予算案 など
	5月11日	愛知県教育会館	第5回準備委員会	シンボルマークの最終図案決定、記念公演の決定 オープニング候補者、実行委員会メンバー、東陸 ブロック運営推進委員会、福井大会でのPRなど

3 実行委員会

	期 日	場 所	会議名	主な内容
令和 5年	8月 2日	愛知県教育会館	第1回実行委員会	実行委員会の組織作り、PRビデオ・のぼり・ベストの検討、福井大会でのPR計画、運営推進委員会の会場及びレセプション会場
	10月 6日	愛知県教育会館	第2回実行委員会	福井大会でのPR内容、委員会の組織作り
	10月 21日	福井県生活学習館多目的ホール	東海北陸ブロック研究大会福井大会	愛知大会のPR
	11月 16日	愛知県教育会館	第3回実行委員会	1次案内のデザイン等の検討、PRビデオの修正点、委員会の組織作り、部会別課題の検討
令和 6年	1月 15日	愛知県教育会館	第4回実行委員会	1次案内の検討、第1回運営推進委員会参加者と要項、分科会のもち方、部会別課題の検討
	2月 9日	アイリス愛知	第1回運営推進委員会	会長会、副会長会、事務局長会、運営推進委員会
	3月 5日	愛知県教育会館	第5回実行委員会	1次案内の検討、全体会・分科会の運営、第2回運営推進委員会の検討と案内、部会別課題の検討
	4月 18日	愛知県教育会館	第6回実行委員会	分科会部会からの共有事項、部会別課題の検討
	5月 9日	愛知県教育会館	第7回実行委員会	大会記録の内容、2次案内の検討、参加者証の検討、運営スタッフの募集、第2回運営推進委員会のもち方、部会別課題の検討
	6月 1日	愛知県教育会館	第8回実行委員会	2次案内の検討、参加者証の検討、第2回運営推進委員会、部会別課題の検討
	6月 14日	アイリス愛知	第2回運営推進委員会	会長会、情報交換会、総会、運営推進委員会
	7月 17日	愛知県教育会館	第9回実行委員会	要項の検討、全体会・分科会の運営、レセプション、部会別課題の検討
	7月 29日	Niterra 日本 特殊陶業市民会館	会場下見	会場下見
	8月 6日	愛知県教育会館	第10回実行委員会	参加証、部会別課題の検討
	8月 8日	Home&nico ホール	会場下見	会場下見
	8月 19日	岡谷鋼機名古屋公会堂	会場下見	会場下見
	8月 22日	愛知県教育会館	分科会部会	分科会のもち方の検討
	9月 14日	愛知県教育会館	発表 PTA 打合せ	分科会での発表に関する確認事項
	9月 19日	愛知県教育会館	第11回実行委員会	部会別課題の検討
	9月 28日	愛知県教育会館	分科会・全体会部会	分科会・全体オリエンテーション・全体会のもち方の検討
	10月 3日	愛知県教育会館	第12回実行委員会	部会別課題の共有・検討
	10月 7日	Niterra 日本 特殊陶業市民会館	第5・第6分科会 最終打合せ	分科会最終打合せ
	10月 10日	岡谷鋼機名古屋公会堂	第1・第2分科会 最終打合せ	分科会最終打合せ
		愛知県教育会館	分科会・全体会部会	分科会・全体会課題検討
	10月 15日	Home&nico ホール	第3・第4分科会 最終打合せ	分科会最終打合せ
	10月 17日	愛知県教育会館	分科会・全体会部会	各担当役割確認
	10月 24日	Niterra 日本 特殊陶業市民会館	全体会式典 リハーサル	全体会式典リハーサル
	10月 25日	Niterra 日本 特殊陶業市民会館 他2会場	東海北陸ブロック研究大会愛知大会 (1日目)	分科会・レセプション
10月 26日	Niterra 日本 特殊陶業市民会館	東海北陸ブロック研究大会愛知大会 (2日目)	全体会	
11月 8日	愛知県教育会館	第13回実行委員会	愛知大会の部会別反省	

大会役員・大会実行委員会・分科会運営関係者

1 大会役員

大会長	今井 隆喜	日本PTA東海北陸ブロック協議会会長 愛知県小中学校PTA連絡協議会会長
大会副会長	宇田 直人	石川県PTA連合会会長
	木原 剛弘	三重県PTA連合会会長
	沼田 秀和	富山県PTA連合会会長
	阿部 雄介	岐阜県PTA連合会会長
	尾関 利昌	名古屋市立小中学校PTA協議会会長
	笠松 照喜	福井県PTA連合会会長
大会推進委員	辻 和久	石川県PTA連合会事務局長
	石川 幸弘	三重県PTA連合会事務局長
	川高 正嗣	富山県PTA連合会事務局長
	林 恵哲	岐阜県PTA連合会事務局長
	榊原 貴久	名古屋市立小中学校PTA協議会事務局長
	野村 等	福井県PTA連合会事務局長
	夏目 真治	愛知県小中学校PTA連絡協議会事務局長
大会委員	第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会愛知大会実行委員	
大会事務局	夏目 真治	愛知県小中学校PTA連絡協議会事務局長
	吉田 雅仁	愛知県小中学校PTA連絡協議会事務局次長
	大平 美佳、太田 直益	愛知県小中学校PTA連絡協議会事務局員

2 大会実行委員会

実行委員長	濱出 研介	
副実行委員長	岩井 紀和、宇塚 明生、田中 広樹	
顧問	伊藤 彰康、松井 寛人、伊藤 準、小玉 昭次、青木 啓祐	
元事務局長	原田 隆行	
広報部長	山内雄一郎	広報副部長 加藤 史朗
おもてなし部長	内田 幸	おもてなし副部長 野村 智之
全体会部長	羽谷 拓朗	全体会副部長 永田 千佳
分科会部長	水野 友義	分科会副部長 柴田麻里子
実行委員	由利谷久美、松野 加奈、小林 貴則、前畑 大輔、加藤 雪絵 吉田 佳世、中村 伸二、榊原 靖浩、塚田 加奈、伊藤 裕一 鈴木 貴晶、長谷生かおり、正岡 久和、鈴木 宏美、惣田 吉彦	

松原 悠太、三浦 一将、小島 夕紀、後藤 晃敏、松田 祐子
坊農由有子、藤江 信彰、荒尾 竜也、小池 久美

3 分科会運営関係者

第1分科会

会場運営責任者 柴田麻里子
分科会長 稲葉 華代
濱出 研介、内田 幸、鈴木 宏美
荒尾 竜也、柴田 卓也、山本 和弘

第2分科会

会場運営責任者 柴田麻里子
分科会長 宮地 有希
今井 隆喜、内藤久美子、長谷生かおり
小林 貴則、三浦 一将、中村 伸二

第3分科会

会場運営責任者 松野 加奈
分科会長 古田みどり
田中 広樹、惣田 吉彦、由利谷久美
山内 さき、加藤 雪絵、山内雄一郎

第4分科会

会場運営責任者 松野 加奈
分科会長 遠山明日香
宇塚 明生、小池 久美、岩田 佳子
浅野 友香、松原 眞弓、武田 修一

第5分科会

会場運営責任者 榊原 靖治
分科会長 三枚堂陽子
羽谷 拓朗、野村 智之、塚田 加奈
後藤 晃敏、坊農由有子、山口慎太郎

第6分科会

会場運営責任者 榊原 靖治
分科会長 伊藤 裕一
岩井 紀和、榊原 恵美、永田 千佳
濱村 伸吾、石川 亮平、加藤 史朗

第 80 回日本 P T A 東海北陸ブロック研究大会 愛知大会報告書

発行日 令和 7 年 1 月 3 1 日

発行者 日本 P T A 東海北陸ブロック研究大会
愛知大会 大会長 今井 隆喜

愛知県小中学校 P T A 連絡協議会
〒460-0007
名古屋市中区新栄一丁目 49 番 10 号
愛知県教育会館 6 階

編 集 愛知大会実行委員会